

竜頭をつけ五穀豊穰を祈った

南逆井では雷も鳴らず雨が降らない。菜園はパサパサになっていく。八月十六日、柏駅から二キロほど離れた篠籠田（しこだ）の西光院で竜神への「雨乞いの舞」があるというので出かけた。その日は三粒でも雨が降るといいう言い伝えがあるそう、それにあやからうという参拝だったが、竜神は聞き届けてはくれなかった。強烈な西日を浴びながらの、元禄時代からの舞は、稽古を重ねたらしく、土俗の味を出していて見事だが、残念だった。

本堂前の一面に竹を立て、しめ縄を張った砂地で四時過ぎに始まった。サル、キツネ、ヒョットコなどの面をつけた十二人のハダシの男衆が身ぶり手ぶり面白くはね回る。笛吹き十人、それに本番で登場する三匹の獅子が太鼓を抱えて控えており、それを打つ。サルやキツネは獅子三匹の露払いとなり、清めの塩を見物人に振りかける。汗をかいているところに塩の洗礼、いささか困る。やがて三匹獅子の登場となる。獅子といっても米作りに必要な水の確保のため竜神信仰があり、三匹とも竜頭をつけている。はなやかな花笠に守られて、舞はクライマックスに。酷暑の中の舞は、まず五穀豊穰への願いを込めたものだった。



舞は真言宗・西光院の施餓鬼（せがき）の行事で、檀家の人々が祖先の霊を慰める日。竣工したばかりの、まばゆいばかりの本堂から、塔婆を持って墓参りへ向かう。それを取り囲むように舞の見物人が右往左往する。

バス停のそばには稲穂の垂れた水田があり、米作りが産業だったころの景色が残っていた。

三匹獅子舞は千葉県無形文化財



逆井漫歩 24

平成12年9月